

## 大山湖畔の記憶【第2回】 ～旧制東京医科歯科大学予科～

1946年(昭和21)8月27日、空襲被害の少なかった鹿島海軍航空隊跡地に、旧制東京医科歯科大学予科(本科進学前の基礎課程)が設置されました。(医学部20名、歯学部60名)  
終戦から1年、航空隊の隊員と同年代の学生たちが大山湖畔で医歯学の道を歩み始めたのです。

### 旧制東京医科歯科大学予科 | 回生の回想

昭和21年9月末、土浦駅から木炭バスに揺られて大谷に到着。米軍から解放された予科(元航空隊)施設の準備が整っておらず、大谷バス停と湖畔の予科の途中にある農協の建物に幾晩か泊まった。

10月に授業開始、軍需品は接収されていたが、教室が置かれた元航空隊庁舎の迷彩色の外壁や、高さ3m以上の飛込台を備えた50mプール、水上飛行機を射出したというカタパルトに圧倒された。

空襲対策で天井板が剥がされたままの南寮(元士官宿舎)の壁には、軍人が書き残した言葉や日本刀掛けがあり、至る所に戦時の名残を感じた。つい1年余り前、決意に満ちた兵(つわもの)共がここに集い護国を誓ったことに思いを馳せると、グランド(元練兵場)に散らばる小石一つにも感慨深いものがあつた。

終戦まで将校を養成する陸海軍の学校にいた者も多かったが、1回生としての気概と新たな人生の始まりに、皆大いに意気込んでいた。

食糧事情の悪い時代に工夫して夜食を作り、集って議論したり、寮祭を愉しみ、文武両道、スポーツにも打ち込んだ日々。戦後の解放感もあって実に活気に満ちた学生生活だった。

湖まで打球が届きそうに思えたグランドで日が暮れるまで野球をしたこと、正門脇の吉田屋さんの食事、帰省のたびに大谷のバス停まで歩いて向かう途中で米を買い、担いで帰ったことも懐かしい。



プール・(中央奥)飛込台跡【昭和48年】



南寮(元士官宿舎)【昭和50年】



グランド(元練兵場)【昭和50年】

新制東京医科歯科大学の礎となった旧制予科は昭和25年に大山湖畔の地を離れましたが、併設された診療所は霞ヶ浦分院として残り、平成9年まで結核治療や地域医療に多大な貢献をしました。

〔参考文献〕「東京医科歯科大学創立五十年記念誌」「東京医科歯科大学霞ヶ浦分院史」

〔取材協力〕東京医科歯科大学名誉教授 岡本良平氏(予科1回生)

〔写真提供〕宇田川秀雄氏(元東京医科歯科大学霞ヶ浦分院医師) 問合せ 企画財政課 ☎029-885-0340

みなさまの声をお聞かせください!

## 美浦村 議会報告会

2/18(土)

午前10時～正午

中央公民館  
大ホール



美浦村議会では、  
「住民に開かれた議会」「住民参加を促進する議会」  
「住民に身近な信頼される議会」の実現を目指し、  
議会報告会を開催します。

テーマ

- ▶ 小学校の統合について
- ▶ 大山湖畔公園について
- ▶ 国道125号バイパスについて
- ▶ 意見交換

※調査等が必要な質問については、事前に事務局までお知らせください。

※参加については、事前の申し込みは不要です。



■ 問合せ 議会事務局 ☎029-885-0340 (内) 301・302